

## 1. 地域の概要

表 地域の概要

地理的 位置	国名及び地域	東アジア 日本国 静岡県 松崎町 石部地区											
	緯度経度	東経 138 度 46 分 44 秒、北緯 34 度 45 分 11 秒（松崎町役場）											
	立地条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村・漁村地域</li> <li>・東京（首都）から直線距離で約 140km</li> <li>・静岡市（県庁所在地）から直線距離で約 40km</li> </ul>											
自然 環境	地形及び標高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松崎町は、北・東・南の三方を天城山系に囲まれ、西は駿河湾に面しており、最低標高は 0m（海面）最高標高は 995.5m である。</li> <li>・石部の棚田は、標高 120m～250m の範囲の傾斜地に広がる水田である。</li> </ul>											
	気候（数値は気象庁の平年値）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松崎町の年間平均気温は約 15.9 、年間降水量は約 1919 mm である</li> <li>・ケッペンの気候区分では Cfa（温暖湿潤気候）に分類される。</li> </ul>											
	植生及び土壌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松崎町の植生は、海岸部では照葉樹林、標高が低い場所ではコナラやクヌギを主とした二次林、標高が高い場所ではスギ・ヒノキ植林が主体である。</li> <li>・石部地区の森林は、コナラ二次林を中心に、スタジイ等で構成される照葉樹林やスギ植林が組み合わさっている。</li> <li>・土壌は褐色森林土である。</li> </ul>											
	生物多様性と生態系の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石部地区は、水田と周囲の森林が組み合わさったモザイク状の景観が形成されており、多様な生物が生息・生育している。</li> <li>・石部の棚田には、スミレ、ヤマアザミ、エビネ、ホタル、キジ、メジロ、リス、ノウサギなどの多様な生物が生息・生育している。</li> </ul>											
社会的 背景	人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松崎町の昭和 35 年国勢調査人口は 12,183 人であったが、平成 17 年国勢調査人口は 8,104 人にまで減少している。</li> <li>・松崎町の平成 17 年国勢調査における高齢化率（65 歳以上の人口比率）は 33.7% である。</li> </ul>											
	歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石部の棚田では、古くは江戸時代から連綿と稲作が続けられてきた。また、かつては養蚕、また良質な伊豆炭の生産なども行われていた。</li> </ul>											
	地域経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松崎町の主要産業は、農業、水産業及び観光業であるが、近年は産業構造の変化や人口の流出及び高齢化の影響により、地域経済は全般的に不振である。</li> <li>・平成 17 年国勢調査における産業分類別の従業者は下記の通りである。</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>第一次産業（農林水産業）</td> <td>279 人</td> <td>7.0%</td> </tr> <tr> <td>第二次産業（鉱業、製造業、建設業）</td> <td>779 人</td> <td>19.7%</td> </tr> <tr> <td>第三次産業（商業、観光業、その他）</td> <td>2,903 人</td> <td>73.3%</td> </tr> <tr> <td>合計 下記注を参照</td> <td>3,961 人</td> <td>100.0%</td> </tr> </table> <p>注：第一次産業～第三次産業の就業者数の比率は、それぞれ小数点以下第二位で四捨五入を行っているため、これらの合計値が 100.0% とならないことがある。</p>	第一次産業（農林水産業）	279 人	7.0%	第二次産業（鉱業、製造業、建設業）	779 人	19.7%	第三次産業（商業、観光業、その他）	2,903 人	73.3%	合計 下記注を参照	3,961 人
第一次産業（農林水産業）	279 人	7.0%											
第二次産業（鉱業、製造業、建設業）	779 人	19.7%											
第三次産業（商業、観光業、その他）	2,903 人	73.3%											
合計 下記注を参照	3,961 人	100.0%											

## 2. 地域の自然資源の利用・管理の実態

### (1) 自然資源の利用・管理の経緯と現状

#### 1) 自然資源の利用・管理に係る土地利用の経緯と現状

- ・松崎町の総面積 8,523ha のうち、山林が 85.0%、農地が 4.0% を占めている。なお、那賀川及び岩科川の下流には、伊豆西海岸最大の平野が形成されており、そこには約 500ha の耕地と松崎町の市街地がある。
- ・全体的に山がちな伊豆半島では、農地は非常に小さなまとまりで分布している。石部地区の棚田は、枚数約千枚、総面積は約 10ha であり、伊豆半島の棚田の中では最大級の規模である。

#### 2) 現在の自然資源の利用・管理の目的と内容

##### 【石部の棚田】

- ・石部では、傾斜が急であること、伊豆石とよばれる良質の凝灰岩が産出したことから、石積みによる棚田が造成された。
- ・石部地区の棚田では、古くは江戸時代から昭和 30 年頃まで、約 18ha の棚田で連綿と稲作が続けられてきた。
- ・現在は 4 ha の棚田のうち 2ha で稲作、残りは景観作物などが栽培されている。

##### 【棚田の周辺における自然資源利用・管理】

- ・石部地区の森林では、かつては木材、炭、堆肥等の林産物の生産が行われており、特に木炭は良質であり「伊豆炭」として知られていたが、近年は林産物の生産量が著しく低下している。
- ・かつては森林と農地との物質循環（森林の刈草を農地の堆肥として利用する等）が形成されていたが、現在ではこうした関係性が失われている。
- ・松崎町は、桜餅に使用する桜葉の特産地であり、全国生産量のうち 70% を占める。石部地区でも桜葉の生産が行われている。



写真 石部の棚田（写真提供：松崎町）

## (2) 自然資源の利用・管理の問題点及び生物多様性への影響

### 【棚田の荒廃】

- ・石部の棚田は、経営規模が小さい上に、機械の導入が困難な地形条件であるため、戦後の農業を取り巻く社会経済情勢の変化の影響で、徐々に耕作放棄地が増加していった。
- ・棚田保全活動の開始前年（1999年）の時点では、かつての棚田の総面積（18ha）のうち約90%が耕作放棄地となっており、かつて水田で普通に見られていたホタルやミズカマキリが著しく減少するなど、生物の生息・生育環境が劣化していた。

### 【棚田周辺の森林の荒廃】

- ・棚田周辺の二次林においては、化石燃料の普及による薪及び炭の需要の減少と、化学肥料の普及による森林由来の堆肥需要の減少により森林の利用量が著しく低下し、植生遷移が進行し、野生動植物の生息・生育環境が劣化している。
- ・棚田周辺の針葉樹人工林においては、林業の不振によって間伐等の管理が行われなくなったことにより、水源涵養や土砂流出防止等の公益的機能の低下や、野生動植物の生息・生育環境の劣化を招いている。

## (3) 上記問題点の解決に向けた地域計画等

- ・石部地区における棚田保全取組は、地元有志の組織である「石部地区棚田保全推進委員会」が策定した「石部地区棚田保全活用ビジョン」や、これを踏まえて策定される毎年の計画に基づいて実施されている。
- ・静岡県は、過疎化・高齢化による担い手不足などで農地荒廃や集落機能の低下が進む農山村地域の活性化に対して、様々な支援施策を実施しており、その一つに「一社一村しずおか運動」がある。
- ・これらの詳細は、次項「3. 取組事例の詳細」で記載する。

### 3 . 取組事例の詳細

#### (1) 取組事例の全体像

石部地区では、地域の自然・歴史・文化を象徴する資源である棚田の保全活動において、地域外の都市住民や企業、大学等と積極的に連携・交流することにより、不足している資金や労力、ノウハウ等を結集し、地域産業の活性化を図っている。

表 取組事例の全体像

場所	静岡県松崎町石部地区
関係主体	<p>【石部地区棚田保全推進委員会】地区住民や行政などで構成され、棚田オーナーの受入などの活動実施主体である。</p> <p>【企業及び大学】棚田保全活動に対して、資金や労力を提供する。</p> <p>【静岡県】棚田保全推進委員会と企業及び大学との協働活動を、「一社一村しずおか運動」の趣旨に合致するものとして認定し、PRを通じて活動を支援している。</p>
背景及び経緯	<p>【棚田保全の取組の開始】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1999年に、石部の棚田が「静岡県棚田等十選」に選定されたことを契機に、地元の農業者の有志が「石部地区棚田保全推進委員会」を設立し、地元住民や一般ボランティアの協力を得て、棚田の復元作業を行った。</li> </ul> <p>【都市住民等との交流開始と「石部地区棚田保全活用ビジョン」の策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2000年に、復元した棚田を活用して、都市住民等による農業体験活動を開始した。</li> <li>・これと並行して「石部地区棚田保全活用ビジョン」が策定された。</li> </ul> <p>【「棚田オーナー制度」や企業等との連携による交流拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2002年には、「赤根田村百笑の里」を開村して静岡県で初となる棚田オーナー制度を導入した。</li> <li>・2005～2006年にかけて、「一社一村しずおか運動」に基づいて5つの企業等と共同体制を構築し、継続的な資金又は労力の提供を受けることとなった。</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石部地区では、農業・漁業・観光などの様々な産業が関わり合っていることから、棚田保全事業を通じて異業種の相互理解や協働を促進し、一次産業から三次産業まであらゆる産業が潤う地域づくりを目指している。</li> </ul>
主な内容	<p>【棚田オーナー制度による都市住民との交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「棚田オーナー制度」に基づき、石部地区棚田保全推進委員会と都市住民等が契約を結び、委員会が棚田米を提供する代わりに、都市住民等から資金又は労力の提供を受ける。</li> <li>・オーナー制度は、農作業への参加を伴う「稲作トラストオーナー」と資金関係のみである「トラスト会員」に分かれている。</li> </ul> <p>【「一社一村しずおか運動」による企業や大学との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「一社一村しずおか運動」とは、静岡県が、企業等の資金や労力等を求める農山村地域の担い手と、CSR活動や農山村ビジネスへの参入を希望する企業とのマッチングを行い、実現した取組を認定するものである。</li> <li>・石部地区でもこの仕組みが活用されており、2006～2007年にかけて、「一社一村しずおか運動」に基づき、民間企業3社、酒販組合1団体、大学1校との協働関係を構築し、資金又は労力の支援を受けることとなった。</li> </ul>

主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域外の主体と積極的に連携することにより、新たな資金や労力、ノウハウ等が導入され、棚田の保全活動が継続されるとともに、棚田で生産した黒米や赤米を原料とする特産物の開発及び販売等の新たな取組が生まれている。</li> <li>・棚田保全活動の成果として、ホテルやミズカマキリが見られるようになるなど、自然環境も著しく好転している。</li> </ul>
------	---

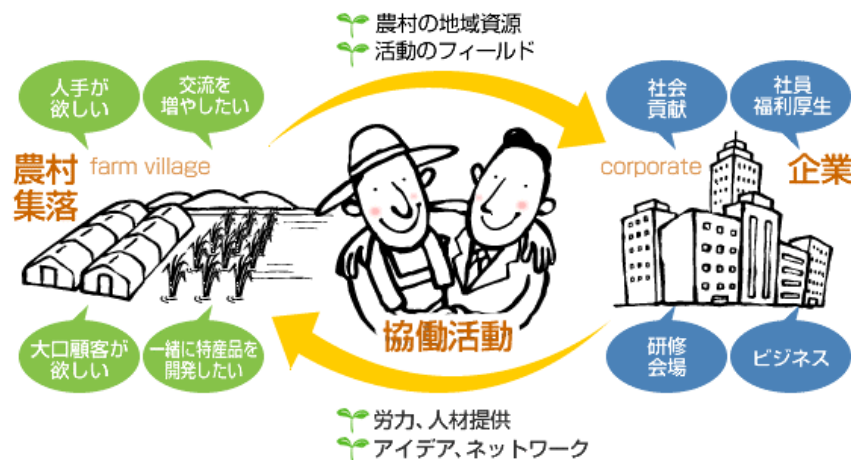
## 「一社一村しずおか運動」の概要

### 【概要】

- ・過疎化・高齢化による担い手不足などで農地荒廃や集落機能の低下が進む農山村地域において、都市と農村の交流人口の増加により活性化を図るために、静岡県は 2005 年に「一社一村しずおか運動」を開始した。
- ・この運動のモデルとなっているのは、2004 年から韓国が国を挙げて実施している「農村愛一社一村運動」であり、この運動では既に 1 万組以上の締結がなされ、農村地域の活性化対策として注目を集めている。

### 【目的及び趣旨】

- ・一社一村運動の目的は、農山村地域と企業等との協働活動による地域の活性化である。
- ・農村の「人手がほしい」「交流を増やしたい」「安定した顧客がほしい」「一緒に特産品を開発したい」という要望と、企業の「社会貢献をしたい」「社員の福利厚生に活用したい」「地域の資源をビジネス化したい」という要望を、静岡県が仲介・調整を行うことによって結びつけることにより、協働活動や都市と農村の交流を産み出し、地域の活性化を促進することを目指すものである。



### 【2009 年 11 月時点での実績】

- ・2009 年 11 月時点で、20 の企業・団体が、17 の農山村の組織と協働関係を構築している（企業等と農山村のとの対応は必ずしも 1 対 1 ではない）。
- ・企業による支援活動の内容は、農地の保全活動への参加、企業の売上の一部寄付、地域特産品の開発、農地における生物の保全活動など、非常に様々である。
- ・石部の棚田における取組内容は後述する。



## (2) SATOYAMAイニシアティブの「5つの視点」から見た自然資源の利用・管理の詳細

本事例と5つの視点の主な関係は、下表に示すとおりである。

このうち、関連度合いが高い視点（表中「 」の項目）について、表の続きに詳細を記載する。

表 本事例と5つの視点の主な関係

5つの視点	本事例との関連	
	関連度合い	関連の主な内容
1) 環境容量・自然復元力の範囲内での利用	■	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地であった棚田が、地域外の都市住民や企業等との交流・協働を通じて再生されている。</li> <li>以下に詳述</li> </ul>
2) 自然資源の循環利用	■	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の取組として、かつての農地と森林が結びついた循環システムの再生</li> </ul>
3) 地域の伝統・文化の評価	■	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棚田の保全活動においては、地元住民が継承してきた伝統的な農作業の方法や風習（どんと焼き等）が継承されている。</li> </ul>
4) 多様な主体の参加と協働	■	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「棚田オーナー制度」により都市住民等との交流が生まれ、新たな資金や労力が導入されている。</li> <li>・「一社一村しずおか運動」を通じて、企業等との新たな協働関係が生まれ、新たな資金や労力、ノウハウ等が導入されている。</li> <li>以下に詳述</li> </ul>
5) 地域社会・経済への貢献	■	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棚田で生産した黒米や赤米を原料として、特産物の開発及び販売等の新たな取組が生まれている。</li> <li>・「棚田オーナー制度」によって交流人口が増加するなど、地域の観光関連産業にも経済波及効果が及んでいる。</li> <li>以下に詳述</li> </ul>

### 1) 環境容量・自然復元力の範囲内での利用

#### 【荒廃していた棚田の再生】

- ・2000年に耕作放棄地の復元作業が行われ、総勢約300名を超えるボランティアと約100日間の作業により、4haの棚田が復元され、そのうち2haで稲作が行われている。



写真 復元前後の棚田の様子（出典：「赤根田村百笑の里」ホームページ）

#### 4) 多様な主体の参加と協働

##### 【「棚田オーナー制度」による都市住民等との交流】

- ・2002年より、都市住民等との交流を継続・拡大させるために「棚田オーナー制度」を開始した。石部の棚田オーナー制度は、田植えや稲刈り等の農作業に参加する「稲作オーナー」と、資金援助が中心の「棚田トラスト」の2つのメニューがある。
- ・棚田オーナー制度を実施するためには、会員の募集、契約、通信等の事務手続きが必要であるが、これを地元の農業者だけで行うことは負担が大きすぎるため、松崎町役場等の協力を得て実施している。
- ・オーナー制度の会員数は順調に増加し、リピーター率が7割を超えるなど現在ではすっかり定着しており、都市住民との交流が活発化している。
- ・オーナー制度の会費は、地元農家にとって貴重な収入源となっており、平成12年度から参加した中山間地域等直接支払制度の交付金と併せて農地の集積や計画的な農機具の購入等が進められた。

##### 【「一社一村しずおか運動」を通じた企業等との連携】

- ・石部地区棚田保全推進委員会は、静岡県による「一社一村しずおか運動」を通じて、下記の企業等との協働関係が構築され、継続的な資金や労力、ノウハウ等の提供を受けている。

表 石部の棚田の保全活動における企業等との協働による取組の概要

連携企業等	活動内容
アストラゼネカ株式会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CSR活動の一環として、「高齢化する村を応援するプロジェクト」と題し、国内40ヶ所の高齢化・過疎化が深刻化している地域に、それぞれ30～150名のグループを派遣し、その地域のニーズに応じて農作業・山仕事・環境整備作業などを行うとともに、体操や交流会などを実施している。</li> <li>・上記の一環として、石部の棚田でも活動を行っている。</li> </ul>
富士錦酒造(株)、(株)平喜、松崎小売酒販組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記の3社は、松崎町石部地区では、石部の棚田で取れた黒米や赤米を使った焼酎「百笑一喜(ひゃくしょういっき)」の製造・販売を行っている。</li> <li>・焼酎の原材料の産地である棚田を守るために、売上の一部を棚田保全活動に寄付している。</li> </ul>
富士常葉大学環境防災学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生がボランティアで棚田の畦づくりや夏場の草刈りを行い、労働力不足に悩む地域に貢献している。平成18年には延べ150人が石部地区を訪れている。</li> <li>・石部地区では、田植え、稲刈りにはオーナー制度の参加者が訪れるが、それ以外の草刈り、田おこし、代掻きなどの労働力が不足していたため、学生ボランティア活動は貴重な活動となっている。</li> </ul>



写真 富士常葉大学の学生ボランティア (出典：静岡県ホームページ)

## 5) 地域社会・経済への貢献

### 【棚田で栽培した黒米や赤米を活用した商品開発・販売】

- ・石部地区棚田保全推進委員会は、地元の企業や商工会と協力し、棚田で生産した黒米や赤米を原料とした加工食品の開発・販売に取り組んでいる。
- ・現在販売されている商品として、黒米や赤米仕込み焼酎「百笑一喜」、黒米パン、棚田黒米うどん、黒米まんじゅう等があり、これらの年間売上は約 600 万円にのぼる。
- ・商工会が 4 年をかけて開発した黒米仕込み焼酎は、初回限定生産の 6 千本が約 1 ヶ月半で売り切れるほどの人気であった。現在は赤米仕込みの焼酎も加えられ、将来性のある地域ブランド商品として期待が高まっている。
- ・隣町である西伊豆町の「黒米せんべい」の開発にも協力している。

### 【観光関連産業への波及効果】

- ・棚田オーナー制度の会員が年々増加することにより、交流人口が着実に増加し、観光関連産業に波及効果を及ぼしている、例えば、田植えの際には、2 日間で延べ 700 人を超える参加者が訪れ、民宿が全館満室となっている。
- ・また、富士山と駿河湾を望む棚田の美しい景観を活かして、スケッチや写真のツアーなどの観光商品開発にも取り組んでいる。



写真 石部の黒米や赤米を原料として製造した焼酎（出典：松崎町ホームページ）

以上

## 参考文献等

- ・静岡県建設部農地局農地保全室「一社一村しずおか運動」ホームページ  
( URL : <http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-630/issyaission/index.html> )
- ・「赤根田村百笑の里」ホームページ ( URL : <http://www.wbs.ne.jp/bt/matsuzaki/tanada/> )
- ・環境省自然環境局 ( 2009 ) 「平成 20 年度重要里地里山選定等委託業務報告書」